

豊かな体験活動推進事業ブロック交流会研究発表

石川県羽咋郡押水町立押水中学校

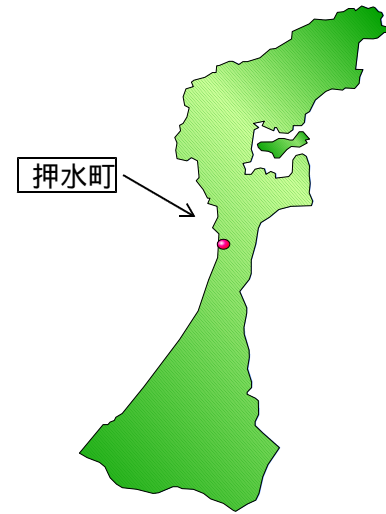
1 学校の概要

(1) 学校規模

学級数：9学級
生徒数：269人
教職員数：18人

(2) 学校環境

押水町は人口約8,500人、石川県の中央部に位置し、東は能登半島の最高峰宝達山(637m)を隔てて東は富山県、西は白砂青松の海岸線が広がる日本海に面している。学校周辺は豊かな自然に恵まれている。特産物の葛やいちじくの栽培が行われており、それらを加工したワイン作りなどが地場産業である。また、宝達山や末森城跡等の観光地があり「YOSAKOIソーラン日本海」等、各種のイベントも盛んである。



押水中学校は、町内の3つの小学校からの入学してくる町内唯一の中学校であり、創立52年を迎える伝統ある学校である。

2 活動のねらい

- (1) 日常の学校生活では体験できない活動を通して、困難にもめげず、やり遂げようとする耐性を育てるとともに、成就感や充実感、満足感を味わわせる。
- (2) 自然や社会、人々との関わりを通して、人と人、人と自然・社会との望ましい関係や在り方を学ぶ機会とする。

3 活動内容と教育課程上の位置づけ

学年等	体験活動の種類 内容	期間・日数・ 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動の 場所	活動の 対象	指導者
1年	地引き網体験活動	8時間	勤労生産・奉仕的行事 総合的な学習の時間	今浜海岸	1年生全員	地元漁師 教職員
2年	校内ボランティア 活動	8時間	勤労生産・奉仕的行事	学校近辺	2年生全員	町ボランティア 教職員
3年	京都伝統産業体験	16時間	旅行・集団宿泊的行事 総合的な学習の時間	京都市内	3年生全員	伝統産業継承者 教職員
全学年	「夢・心」講演会 ・コンサート	15時間	旅行・集団宿泊的行事	押水中学校	全校生徒 PTA会員	出演者 教職員
全学年	クリーン大作戦	8時間	勤労生産・奉仕的行事 総合的な学習の時間	押水町内 一円	全校生徒 PTA会員 教職員	PTA会員 教職員
全学年	宝達山 ボランティア登山	8時間	旅行・集団宿泊的行事	宝達山	小・中・高 校生	町ボランティア 教職員
全学年	押水町合同音楽会	10時間	学芸的行事	押水中学校	小・中・高 校生	教職員

4 活動概要

(1) 事業計画

事業の趣旨及び内容説明等について
事業内容の検討と問題点等について
事業実施の協力体制等について
事業実施についての反省及び評価について
次年度への問題点等の点検と実施内容の検討等について

(2) 課題

事前事後の指導体制について
事業の実施内容の評価などについて
指導体制の強化について

5 地域としての取り組み

(1) 推進地域協議会

押水町体験活動推進協議会（各小中高校の学校長・体験活動担当教諭・町教育委員会課長・課長補佐・派遣社会教育主事の計13名）を基盤として、地域としての体験活動のねらい、年間計画、予算執行説明、小中高校連携型事業等の打ち合わせ会を実施している。

(2) 学校支援委員会

学校を拠点として、広く地域にも体験活動の協力・理解を図るため、それぞれの学校に体験活動支援委員会を設置している。

相見小学校体験活動支援委員会

（校長・教頭・教務主任・教諭2名・PTA6名・地域関係者2名の計13名）

宝達小学校体験活動支援委員会

（校長・教頭・教務主任・教諭2名・PTA4名・地域関係者2名の計11名）

押水第一小学校体験活動支援委員会

（教諭2名・PTA1名・学校支援ボランティア2名・区長会1名・民生委員1名の計7名）

押水中学校体験活動支援委員会

（校長・教頭・教務主任・教諭3名・PTA2名・地域関係者5名）

宝達高等学校体験活動支援委員会

（地域関係者1名・地元企業関係者3名の計4名）

6 活動の概要（小中高連携事業）

(1) 宝達山ボランティア登山

ねらい

次代を担う子どもたちが、押水町の象徴ともいえる宝達山（標高637m）のクリーン運動を通して、町内小学校・中学校・高等学校が連携・交流しながら、児童・生徒のより豊かな人間性や社会性を身につけ、あわせてボランティア精神を養う。

活動の内容

ア 期日：平成14年10月1日（火）

イ 山の竜宮城に11時30分到着をめぐり、決められた各登山道をごみ・空き缶などを拾いながら登山する。（到着時間をもとに各学校の出発時間を設定）

- ウ 決められたごみ分別場にごみを分別後、簡単なセレモニーを実施した。その後、高校生が用意しためった汁の提供を受けて、小・中・高校生の交流をかねた昼食時間とする。
- エ 各出発場に15時頃到着するよう上ってきた登山道を下山する。
(到着時間をもとに各学校の出発時間を設定)

成果

- ア 推進委員を中心とした各学校と関係機関との連携で、具体的な取り組みの計画や実地調査を含めた安全面の配慮、準備等がスムーズにできた。
- イ 登山コースは体力の差も考慮に入れ学校別に設定したが、その中でも高校生が各コースを先導したり、山頂で各学校間の交流ができたりしたことなどは、互いの連帯感を育むよい機会になった。
- ウ 大量のごみがあったわけではないが、子供たちにとっては一見美しい自然の中にも、ごみのポイ捨て等が環境を汚す一因となっていることを本活動を通して実感し、環境に配慮する必要性を認識できたと考えられる。

課題

- ア 各学校から登山口までの移動において、安全面への配慮をより一層充実させる。
- イ 子供たちにとっては、ごみ袋を持ったまま山頂へ移動したことが負担になった。
登山途中でごみの回収車を巡回させる等の配慮が必要である。
- ウ コースによって回収されたごみの量に差があったため、コースの選定を再考する。

(2) 押水町合同音楽会

ねらい

町内の小・中・高校生が一堂に会し、演奏を聴き合うことを通して互いの交流を深める。また、音楽を楽しみ、音楽の良さを感じる豊かな心を育てるとともに鑑賞のマナーも身につける。

活動の内容

- ア 期日：平成14年11月1日(金) 14:00開演
- イ 会場：押水中学校体育館
- ＜開会式＞ 開会の辞、開会の言葉、お祝いの言葉
- ＜プログラム＞

出演順	内容	曲 目	出演者
	器楽演奏	ポップス	小学5年生
	合 唱	「モルダウの流れ」「春に」	中学3年生
	全員合唱	「夢の世界を」	小・中・高校生
	吹 奏 楽	ドラマテーマ曲 他	宝達高校吹奏楽部
	特別演奏 弦楽四重奏	クラシック音楽 四季より「春」 他	弦楽四重奏団

＜閉会式＞ 講評、閉会の言葉、閉会の辞

成果

- ア 小学校4年生から高校3年生までの合同音楽会であることから、演奏形態や演奏曲などプログラム作成に配慮した。器楽、合唱、吹奏楽、弦楽と様々な形態の演奏を組み込んだプログラムを設定できたことで、児童生徒は集中力を持続させ、興味を持って音楽会に参加できた。
- イ 小中高がお互いの演奏を聴き合う機会はほとんどないので、自分より下の学年の演奏を聴く時はその頃を思い出し懐かしみ、上の学年の演奏を聴く時は憧れや希望を持ち、お互いにとって大変良い機会となった。これまで小中学校の合同演奏会であったが、今年度は高校生も加わったことで、音楽会の幅が広がり迫力が増した。
- ウ 音楽会は、鑑賞のマナーを指導する面でも良い機会となっているが、鑑賞するだけでなく、演奏者として発表の場が与えられることで、目標を持ち、日常の音楽活動にも良い影響があった。

課題

- ア 参加人数が増えたことで楽器の搬入搬出の方法、各学校からの移動方法など、より適切な方法を検討していく必要がある。
- イ 押水中学校体育館で開催しているが、音響、照明、ステージ、客席など設備面が整っていないことが非常に残念である。設備の整った会場で音楽会が開催できれば、児童生徒により良い音楽を体感させることができると思われる。会場の検討も含め、より一層の充実が必要である。
- ウ 音楽を楽しもうとする心、音楽の良さを感じる心を持ってもらいたいという願いがあり、この音楽会も良い機会となっている。今後も音楽会に限らず、学校生活の様々な場面を通して豊かな心を育てていきたいと考えている。

7 活動の成果

- (1) 多様な活動を通して、教室環境とは異なる学習環境の中で級友の意外な面を発見し、新たな人間関係を構築できた。さらに、異年齢の子供たちとの交流、学校間交流、地域の人々との世代を超えた交流など広く様々な人々と触れ合う中で、人と人との関係や在り方を身を持って学び取っていく機会となった。
- (2) それぞれの体験を自分なりに整理し、感じた点を文章に書く等して、その折々の様子を資料として保持したことで、活動を整理し、その意義を把握することができた。

8 今後の課題

- (1) 各教科学習で身につけた基礎基本の力や総合的な学習における個の課題が、体験活動の中で生かされるように工夫し、それらを通じて生きて働く学力として定着させたい。そのために、体験活動と各教科、総合的な学習との関連を図り、体験活動の効果を高める必要がある。
- (2) 地域の関係機関、関係団体等との連携に十分配慮し、学校外の指導者の協力を得ることや活動の場を確保することをはじめ、体験活動が円滑にできるよう、適正な計画づくりと推進体制づくりに一層努めていきたい。